

# 日本中東学会ニューズレター

**JAMES  
NEWSLETTER**



**No.112**  
10/20 2007

## 目 次

ぜひ、秋の信州へおいでください

第 13 回公開講演会「日常のなかに中東を掘り起こす(3)—— 日本のなかの中東、世界のなかの中東」のお知らせ……………	1
第 24 回年次大会研究発表の募集……………	3
『日本中東学会年報』(AJAMES) 編集委員会報告……………	4
第 12 回公開講演会「中東・イスラーム世界の素顔を知る」報告……………	5
訂正とお詫び……………	6
会員の異動……………	7
寄贈図書……………	8
2008 年度会費納入のお願い……………	9
事務局より……………	9
編集後記……………	10

ぜひ、秋の信州へおいでください

## 第 13 回公開講演会「日常のなかに中東を掘り起こす(3)—— 日本のなかの中東、世界のなかの中東」のお知らせ

2001 年 9 月の米国同時多発「テロ」事件以来、アフガニスタン、イラクと続いた中東での戦争は、この地域が今日の国際情勢のなかに占める重要性をあらためて世界中に認識させました。しかし、多くの日本人にとって中東は相変わらず世界で最も「遠く」感じられる地域のひとつであり続けています。他方、仕事のため中東で生

活したり、中東から留学生や就業者を迎えたりして、日本と中東との接触が進み、日常生活のレベルにおいて多くの情報と知識が蓄積されています。

本講演会は日本と中東との間の文化交流の歴史を振り返るとともに、中東研究者、中高校教員、高校生、その他市民が集まり、身近な中東関係の情報と知識を発掘・検証しながら、日常生活や学校教育における中東・イスラームの姿について考えます。皆様どうぞお誘い合わせの上、秋の信州・長野にお越しく下さい。お待ちしております。

日時：2007年10月27日(土) 13:30-18:00

場所：信州大学教育学部 E504 教室

(長野市西長野 6 の口 JR 長野駅善光寺口よりバス「善光寺經由宇木行き」「善光寺・西条經由若槻東条行き」「善光寺・若槻団地經由若槻東条行き」のいずれかに乗り、「大門南」で下車、バス停から徒歩 5 分)

講演 (1)「駱駝と日本人」 杉田 英明(東京大学大学院教授)

(2)「新しい世界史へ」 羽田 正(東京大学大学院教授)

パネル・ディスカッション「世界史教育における中東・イスラーム」

基調講演「どこまで来たか中東・イスラーム認識——私の世界史学習遍歴」

二谷 貞夫(上越教育大学名誉教授)

パネリスト 小川 幸司(長野県松川高等学校教諭)

窪田 善雄(長野県小諸高等学校教頭)

鈴木 久男(千曲市立屋代中学校教頭)

日本中東学会会員有志

司会 加藤 博(一橋大学大学院教授)

この講演会は、2006年7月25日、東京で開催した第10回公開講演会「日常のなかに中東を掘り起こす(1)——教育現場の中での中東・イスラーム」、2006年11月18日、山口で開催した第11回公開講演会「日常のなかに中東を掘り起こす(2)——地方における中東・イスラーム」を引き継ぐ形で、信州大学教育学部、長野県教育委員会、長野市教育委員会、ニーズ対応型地域研究推進事業プロジェクト「アジアのなかの中東」を後援として開催されます。

(加藤 博)

## 第 24 回年次大会研究発表の募集

来年度の年次大会は、2008年5月24日(土)、25日(日)の両日、千葉大学西千葉キャンパスで開催され、例年通り、大会 2 日目(5月25日)が研究発表となります。

### 1. 研究発表

研究発表を希望される方は、2007年12月10日までにご応募ください。その際、①発表のおおよその骨子(日本語で400字、欧文の場合は200 words 程度。内容とテーマが分かるもの。正式の「要旨」は、プログラム確定後、改めて発表予定者に執筆をお願いすることになります)を添付して下さい。②使用希望機器をお申し出ください(プロジェクター等の台数に限りがありますが、可能な限りご希望に応えるようにします)。

### 2. 企画セッション

第 24 回年次大会では、会員による企画セッションも公募します。特定のテーマについてセッションを企画してみたいという方は、以下の要領でご応募ください。

持ち時間は2時間15分で、発表者は3から4名。コメンテーター(討論者)をつけるかどうかは自由ですが、司会者は必ず1名必要です。なお、発表者・司会者・コメンテーターはすべて日本中東学会会員であることとします。企画者は、①企画セッションのタイトル、②企画の趣旨(日本語で400字、欧文の場合は200 words 程度)、③参加者の一覧、④各発表者の発表の骨子(趣旨文と同様の分量)、⑤使用希望機器、を大会実行委員会事務局宛にお送りください。司会者とコメンテーターは応募の時点で確定していなくてもかまいません。調整の都合上、企画の内容について、事務局から適宜問い合わせ・ご相談をさせていただくことがあります。

### 3. 託児所

託児所の利用を希望される方は、事前に大会実行委員会事務局までお申し出ください。

以上、よろしく願いいたします。

#### 連絡先

日本中東学会第 24 回年次大会実行委員会(事務局)

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学文学部史学科 秋葉淳研究室

Tel & Fax: 043-290-3630

E-mail: james2008@l.chiba-u.ac.jp

(第 24 回年次大会実行委員会)

## 『日本中東学会年報』(AJAMES)編集委員会報告

日本中東学会年報(AJAMES)編集委員会より、ご報告いたします。

### 1. 23-1号刊行のお知らせ

すでに8月にお手元にとどいていることと思いますが、23-1号が2007年7月31日に刊行になりました。論文(和文3本、英文3本)、研究ノート(和文1本)、資料紹介(英文1本)、書評2本が掲載されています。多くの投稿をいただきありがとうございました。会員の方で冊子がお手元に届いていない方がおられましたら、事務局にご一報ください。

今号から、論考の末尾に、英文での Abstract を掲載しています。これは、冊子上での英文要旨の提供だけでなく、電子化・オンライン化への対応のためにとられた措置です。表題や Abstract は、電子図書館やGoogleでの検索対象となります。AJAMES の掲載論文が検索でヒットしやすくなり、電子図書館上のフルテキストの講読にもつながるものと期待されます。ご利用いただければ幸いです。

### 2. 23-2号編集中

現在、23-2号の編集作業を鋭意進めています。来年1月の刊行予定です。乞う、ご期待。

### 3. 24-1号投稿締切のお知らせ

次々号24-1号への投稿締切は、12月20日です。論文、研究ノート、書評、博士論文要旨など、各ジャンルへの投稿をお待ちしております。投稿予定の方は、学会ホームページより最新版の原稿執筆要領をダウンロードいただき、そのルールを遵守の上、ご執筆ください。投稿ならびに AJAMES についての諸種のご連絡には、次のアドレスを利用しています。

[ajames-editor@tufs.ac.jp](mailto:ajames-editor@tufs.ac.jp)

どうぞよろしく願いいたします。

(林 佳世子)

## 第12回公開講演会「中東・イスラーム世界の素顔を知る」報告

第12回公開講演会「中東・イスラーム世界の素顔を知る」は、NIHU プログラム・イスラーム地域研究(中心拠点)との共催で、6月30日(土)午後2時から6時まで、千葉大学西千葉キャンパスけやき会館で開催された。私市正年会長による開会の挨拶に続き、片倉もとこ「イスラームの日常世界——人間観をめぐって」、大稔哲也「エジプト庶民街から見たコプトとムスリム——イスラームのもとでの諸宗教共存」の二つの講演が行なわれ、後半ではこれに対するコメント、質疑応答が行なわれた。

片倉氏による講演は、岩波新書に収められた同名のロングセラー『イスラームの日常世界』をいわば「再訪」するスタイルをとりながらも、パワーポイントを駆使して貴重な映像を紹介し、またアフガン戦争やイラク戦争へのイスラーム世界の人々の反応をもさりげなく伝えて、新鮮な感銘を与えるものとなっていた。イスラームといえば「テロ」や戦争がらみの報道ばかりが氾濫する現在の日本社会にあって、その「日常」に目を向けることの重要性が改めて強調されると同時に、仏教とイスラームとの「共価値性」の問題や、日本人の意外に高い「文化受容力」にも言及があり、希望の感じられる内容であった。

大稔氏による講演は、同氏のカイロ留学中の経験談を盛り込んだ巧みな構成により、現代のエジプトにおけるコプトとムスリムの共存という、日本人には必ずしもなじみのないテーマに、一気に聴衆を引き込んだ。中東における諸宗教共存の歴史が論じられたのち、スライドや音楽テープも用いながら現代エジプトのコプト社会の諸相が紹介され、さらにカイロの教会における聖者生誕祭の様相を記録した貴重なビデオも上映されて、聴衆を圧倒した。講演は同時に、コプト・ムスリム間の人間関係や、目に見えない「壁」、改宗をめぐる軋轢や緊張にも触れており、「共存」の実態を紹介するだけでなく、共存の維持をめぐるさまざまな問題をも考えさせる内容となっていた。

後半ではまず、長澤淑夫氏(千葉県立浦安南高等学校)と岡美由紀氏(シビックアクション千葉)によるコメントが行なわれた。長澤氏は、イスラームが諸宗教の共存を重視したのに対し、ヨーロッパは宗教戦争を経験したが、それが逆にヨーロッパにおいては、国家は個人の信仰に介入すべきではないという政教分離の発想を生み出したのではないかと述べ、イスラームにおける政教分離の展望についての検討を求めた。また、イスラームを他の宗教や文明と比較する視点と共に、イスラーム自体の歴史的变化・変遷という視点も必要ではないかと、この問題提起を行なっ

た。岡氏は、「多文化主義」といったことばが生まれるはるか以前に、その理念がイスラームという成熟した都市文明のなかで実現していたのではないか、という感想を述べた。また、市民運動への参加の経験を踏まえつつ、今後日本社会と中東・イスラーム世界が、環境等の分野で協力していくことの重要性も指摘した。続いて会場からは、①イスラーム世界も今後、欧米的な資本主義の道を歩むのかどうか、②トルコの政教分離をどう捉えるか、ナショナリズムや社会主義とイスラームの関係、また③中東の人々は日本人をどう見ているのか(ちなみにこれは高校生からの質問であった)等の質問が出され、片倉・大稔両氏からそれぞれの講演内容に引き付ける形で丁寧な回答があった。

公開講演会が千葉で開催されるのは初めてであったが、学会ホームページでの周知、近隣の公民館・図書館・高校等へのポスター配布が功を奏してか、約150名の参加者を得ることができ、なかなかの盛会であった。終了後のアンケートでも、「『日常世界』という視点が大切と思った」「分かりやすく、深い内容だった」「貴重な映像資料を見ることができて良かった」「エジプトにコプトという人々がいることを初めて勉強した」等の感想が寄せられた。

講師の方々はじめ、講演会成功のために尽力されたすべての関係者のみなさん、ありがとうございました。

(栗田 禎子)

## 訂正とお詫び

前号のニューズレター111号3ページの青柳かおるさんの職名が、誤って「東京大学大学院人文社会系研究科助手」となっておりました。正しくは「東京大学大学院人文社会系研究科助教」です。同じく、12ページおよび16ページに掲載された後藤絵美さんの学会発表は、「誰が『ヒジャーブ』を定義するのか——現代エジプトのヴェール論争にみる宗教と権威」が正しいタイトルです。ここに訂正してお詫び申し上げます。

また、111号12ページ冒頭で触れましたように、年次大会報告は、大会実行委員会と各部会司会者等からの報告にしたがって作成しましたが、発表タイトルが実際と異なるものが他にもありえると思われまます。お手数ですが、自分の報告のタイトルが正確にニューズレターに記されていない方は、事務局までご連絡ください。

## 会員の異動

【新入会員】

【所属先・連絡先の訂正・変更】

寄贈図書

【単行本】

郡司みさお『恋するサウジアラビア——アラビア最近生活事情』角川学芸出版、  
2006年。

郡司みさお『不思議探検サウジアラビア——砂漠とコーランと王族2万人の国に  
ようこそ』大和出版、2006年。

私市正年・佐藤健太郎編『モロッコを知るための65章』明石書店、2007年。

同志社大学一神教学際研究センター(CISMOR)『同志社大学 21 世紀 COE プログラム 一神教の学際的研究——文明の共存と安全保障の視点から 2006 年度 CISMOR 国際ワークショップ「『ヨーロッパ』という自己理解と一神教」』同志社大学一神教学際研究センター、2007 年。

東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター編『アジアの経済発展と伝統文化の変容』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、2007 年。

中村覚編『サウジアラビアを知るための 65 章』明石書店、2007 年。

西野節男・服部美奈編『変貌するインドネシア・イスラーム教育』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、2007 年。

#### 【逐次刊行物】

『赤旗』日刊第 20348 号、2007 年 7 月 16 日。

『ARTS CLUB』Arts Dance Center、2007 年。

『岡山市立オリエント美術館研究紀要』21 号、岡山市立オリエント美術館、2007 年。

『季刊アラブ』122 号、日本アラブ協会、2007 年。

『国立民族学博物館要覧 2007』国立民族学博物館、2007 年。

*Newsletter*, Research Centre for Islamic History, Art and Culture (IRCICA), Organisation of the Islamic Conference, no. 72, 2007.

### 2008 年度会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。年次大会の折に 2008 年度分の会費納入の機会を設けさせていただきましたが、未納の方は、前号および本号のニューズレターに郵便振替払込用紙が同封されておりますのでご利用ください。2007 年度以前の会費を未納の方はどうかお早めにお支払いください。未納分の払込確認後、当該年度の AJAMES をお送りいたします。

### 事務局より

ようやく新しい事務局も仕事に慣れ、さらに効率的な運用についてさまざまな工夫が凝らされるようになってまいりました。もっともそう思えたときにはすでに第 12 期は四分の一が過ぎておりましたので、この間対応の遅さにいらだたれた会員が多いのではないかとというのが心配です。

この間の事務局運営に係わることで、ここでお知らせしておいたほうがよいと思われることに若干触れさせていただきます。

- 前号のニューズレターに、名簿および会費振込用紙を同封しましたが、一部封入がなされなかった会員がおられます。それらの方々には本号にてご送付申し上げておりますが、なお未着の方は、事務局までいそぎお申し出ください。
- 会費前納制により、今年度は 2008 年度会費納入をお願いしておりますが、ご勤務先の規則等によりこれが困難な場合があります。将来的な前納制撤廃の検討と同時に、現時点では個別に対応いたしますので、事務局までご相談ください。

(赤堀 雅幸)

### 編集後記

ニューズレターをもう少し魅力的なものにするにはどうすべきか、と考えるつ、労力や時間の制約、技術的な限界などのために、シンプルなものとなりました。次号以降、もう少し内容を充実させる方向でがんばります。

(山岸 智子)

#### 日本中東学会ニューズレター 第112号

発行日 2007年10月20日

発行所 日本中東学会事務局

印刷所 東洋出版印刷株式会社

#### 日本中東学会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学アジア文化研究所気付

Tel & Fax: 03-3238-3693

Eメール: james@db3.so-net.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/james/>

郵便振替口座: 00140-0-161096(日本中東学会)

銀行口座: 三井住友銀行渋谷支店(普) 5346808

(日本中東学会 代表 私市 正年)